

心の病地域の支え大切

室蘭市研修会、市民ら学ぶ



統合失調症の症状など心の病気の正しい理解を呼び掛けた研修会

室蘭市障がい者理解促進事業研修会（市主催）が13日、輪西町の市民会館で開かれた。三愛病院（登別市）の精神保健福祉研究会のメンバーらを講師に、心の病を抱える人が地域で暮らし

ていくために必要なことを学んだ。

講演では、同研究会メンバーの川淵博貴さんが、心の病気の歴史や統合失調症の症状、治療法などを説明。「かつて精神疾患は理解不

足で閉じ込めておくのが正しいという風潮があった。後に病院に入院となり、人権が尊重されるようになったのは治療法の発展が大きかった」と述べた。

その上で「個々に合った生活ができるよう入院から地域で暮らす方向になってきている」と強調。心の病は恐ろしいものではなく、身近なもので地域の支えが大切とし、「就労支援センターなど居場所づくりが必要。気軽に相談できる社会が大切」と訴えた。

続いて統合失調症を乗り越え、市相談支援センターらんでピアサポーターを務める男性が自身の経験を生々しく伝えた。川淵さんは「同じまちで暮らす人同士、思いやりを持ち生活することにより良い地域をつく

る。まず私たちに相談を」と呼び掛けた。

市が障害者の理解に向け

て毎年開いている。この日は市民ら約50人が参加した。
（粟島曉浩）